

積極的傾聴（共感的受容）のインタビュー

——編集後記に代えて

『地域人材育成研究』第二号は、愛媛県立今治北高等学校大三島分校の生徒の声を報告しました。

インタビュー調査はとてむくつろいだ雰囲気で行われました。インタビューアは高校生との年齢差が少ない若手であり、しかし訓練された経験のある研究者であり、私も同席していたのですが、高校生は思っていることや感じていることを自由に語っていました。

社会調査にはいろいろな方法があります。たとえば○×式のアンケート調査に代表されるような、あらかじめ研究者が用意した質問に答えてもらい、研究者の仮説を確かめるといふ方法があります。これに対して、研究者はどんなに先行研究を読み込んでいたとしても、なるべく自分の仮説に囚われずに（自分の仮説が変容していくことを求めるかのように）、回答者の解釈の枠組みや感覚の枠組みを浮き彫りにすることを試みるといふ方法もあります。回答者に寄り添った方法です。後者の方法をとる立場の一つに、社会的構築主義という考え方があります。私たちは社会的構築主義の立場からインタビューを行いました。

社会的構築主義によると、回答者はあらかじめ考えを持っている場合もあるが、インタビューアとのや

りとりの中で、考えていたことに気づいたり考えが明確化したりするといえます。また、自分の考え方や気づき方の枠組み——これを解釈枠組みといいますが、明確化するといえます。

今回のインタビューでは、社会的構築主義の考え方に近いことがおきていました。インタビューアはあらかじめ理論や仮説を勉強していました。あらかじめ大まかな質問項目を用意していました。前述のように私はインタビューに同席していましたが、インタビューアは生徒が高校生活を考えるのを「積極的傾聴（共感的受容）」することを心がけ、生徒が深いところにある意識や普段は気づかずにいた意識と向かい合うことを支援しました。

大三島分校の生徒は写真甲子園に出場していますが（桐木憲一『写真甲子園 シャッターガール moment』小学館、で紹介されています）。生徒はレンズを通して普段見ている大三島とは異なる大三島を見たように、積極的傾聴（共感的受容）というレンズを通して様々な意識と出会いました。生徒の語りには、生徒の深層意識や普段は当たり前だに思ってた深く考えなかったことや解釈枠組みが含まれていました。

本報告書は生徒の意識や気づき、解釈枠組みを記述することを目的としています。研究者の仮説の検証結

果を報告することや、生徒の意識や気づき、解釈枠組みの分析結果を報告することよりも、生徒の様々な意識、気づき、解釈枠組みを記述することを心がけました。ただし、記述は調査者の目に映ったことを調査者の言葉で記述しています。社会的構築主義の観点からこのことを説明すると、A 調査者がインタビューを行い、A 調査者の目に映った生徒を A 調査者の言葉で紹介した、ということになります。読者のみなさんには、A 調査者のあらかじめの仮説や解釈がインタビューの中でどのように変化したかを読み取っていただくのも一つの読み方だと思っています。あるいは絵画を見る時と同じよう、描き出された内容をみなさんの目線で解釈していただくのも一つの読み方だと思っています。

地域人材育成研究会代表

樋田大二郎

2

地域人材育成研究

第2号

二〇二〇年四月三〇日発行

特集…各地の高校魅力化プロジェクトを紹介

愛媛県立今治北高等学校

大三島分校生徒インタビュー

デザイン…金子あかね・金子純一
編集・発行…地域人材育成研究会